一日総合大学

平成30年12月18日
編集発行
磐城桜が丘高等学校
進路指導部
印刷 ㈱ネクスト情報はましん

大学模擬授業「いわき明星大学」にて開講

10月30日(火)、本校一年生を対象に、いわき明星大学で「一日総合大学」を実施した。この行事は、進路目標が明確に定まっていない１年生のうちに、実際に大学での模擬授業を受講することで、少しでも早い時期に興味関心のある分野を確立してもらうために毎年恒例となっている行事である。今年度も、いわき明星大学の先生方にお忙しい中でご協力いただき、それぞれの分野・系統別に工夫を凝らした授業を計13講座展開していただいた。午前中、生徒は興味のある講座を２つ選び、実際に大学の模擬授業を体験することで、専門的内容に圧倒されながらも知的好奇心が高まった様子であった。午後は、七島良雄先生に新入試に向けての講話を聞き、今の段階から学習や活動の記録等、日々の積み重ねを大切にし、入試への準備していくことが重要であると再認識したようである。

今回の「一日総合大学」を通して、大学の広さや設備の充実さ、より専門性のある講義など、大学生活の一端を体験することで、大学進学への意識高揚が図られた。これを機に、自分はどこでどんな学問・分野を探究し学びたいのかをしっかりと考え、今後の進路選択及び、進路実現に向けて、これからの高校生活を充実したものになるよう期待している。

体の仕組みと薬の効く仕組み ―薬理超入門―

江藤　忠洋先生

1508　大塚　大樹

今回の授業では、身近な病気について、改めて考えさせられました。まさか風邪がウイルスが原因で起きているなどとは考えたこともありませんでした。風邪の影響で起こる症状が体を守る為に自ら起こしていたということもおどろきでした。この様に、身近なこともよく考えてみるとまだまだ知らないことがたくさんあるのだということが分かりました。薬学部は、六年間も勉強をしなくてはいけません。それはとても大変なことです。ですので、高校から対策をしていきたいと思いました。

1610　木村　晴季

日々の生活でかぜをひいたり、もっとひどい時は薬を飲んだりしていました。この講座を受けてあたりまえにあったかぜや薬などの作用について考えることができました。実際に、二日前ぐらいまで、かぜをひいていて咳や鼻水などひどかったです。今回の講座で咳は異物を排出していて、鼻水は粘液に細菌やほこりがついたのを出すことだということが分かりました。他にも発熱はセットポイントがPGE$_2$によって上がって熱が出てしまうことも分かりました。先生が黒板に書かれた絵も分かりやすかったです。体の仕組みや薬の仕組みに興味をもてました。ありがとうございました。

看護と公衆衛生学

後藤　恭一先生

1115　齋藤　舞桜

この講義では看護と公衆衛生について学びました。私は将来看護師になりたいと思っています。そのためこの講義を選びました。まず看護と公衆衛生の違いとして、看護(臨床)は個人を対象としています。反対に公衆衛生(地域)は集団を対象としています。まずこの違いを初めて知りました。また健康の定義としても様々な捉え方があるということも知りました。健康とは、コミュニティや生活習慣、地域など様々なものが土台となり、支えられているものでした。また健康とは個人が個人で守るものと思いがちですが、地域住民が一体となって守ることで、より豊かな社会生活を営むことができるということを学びました。

1409　岡部　美月

まず、公衆衛生とは、保健師だけでなく看護師にとっても必要不可欠なものだと知りました。また、臨床(看護)と地域(公衆衛生)のちがい、一次予防、二次予防、三次予防について、がんについても学びました。臨床の対象は個人に対してアプローチする、地域の対象は集団に対してアプローチをする。日本では年間八十六万人ががんになり三十七万人ががんで亡くなっている、など今の現状を学ぶことができました。

「病気になったら治す」から「病気にならないように予防する」という考え方が大切だと、後藤先生はおっしゃっていました。なので今回学んだ看護の目的や、これからの医療に目を向けて、これからの進路に活かしていきたいです。

こどものリハビリテーション

北山　淳先生

1515　佐々木香子

作業療法と理学療法の違いやどんなことをするのかが分かりました。発達障害とは、成長の途上で何らかの原因があり、成長や発達に歪みや遅れがうまれ、そのため、次の段階の発達にも影響が及び、社会的な対応がうまくいかなくなってしまうことで、アインシュタインやエジソン、チャップリン、坂本龍馬などの有名人にも多くいることを知りました。あの億万長者であるビル・ゲイツやハリウッドスターのトム・クルーズもそうであるときいて驚きました。最後に実際に発達障害の立場から文字を書いたり読んだりしました。文字を逆に書いてしまったり、読みづらかったりしました。自分にとっては普段あたり前にできることも発達障害の人にとってはとても難しいということを実感しました。

1731　中野　鈴花

理学療法士になりたいと考えていましたが、作業療法の方が将来的に需要が多く、人数も少ないということを聞いて少し視野を広く持つことができたと思います。それから、明星大学もリハビリ系の学科ができるということで、授業内容や地元の利点、明星大学と他の大学を比べてなど学科について知ることができたので良かったです。また、発達障害について、よくマイナスにとらえられがちですが、歴史上の人物にも有名人でも発達障害をわずらいながらも今の便利な暮らしに影響した人はとても多く、可能性を秘めた人達だということに納得しました。見方を変え、様々な視点で見ることが大事なのだと勉強になりました。

意識と無意識の心理学 ―「分かる」ってどういうこと?―

大原　貴弘先生

1234　山田ゆうか

人に起こる生理現象で、あくびや笑いは伝染することがおもしろかった。外向的な人の方がこれらがうつりやすいことがわかり、自分もよくあくびがうつってしまうので、もしかすると外向的な人なのかなと思った。人間は他の動物と違い、かつてそこに何があったのか、もともとどういうものだったのかという面影を見てものを見たりすることを初めて知った。その実験での人間とチンパンジーとの違いはとても興味深かった。また、「人は生まれつき心理学者」という言葉を聞いた。他人の心を推測するからだそうだ。だが、人が見ている他人の心は、ほんの一部にすぎず、氷山のように、まだ海に沈んでいる氷の部分がたくさんある。そこと向き合い、自分を知っていくことが、他人と関わることでも大切なことだと学んだ。

1413　小野　優介

心理学を学ぶと人の心が分かるわけではないというのが分かり、納得した反面、少し残念だなと思った。心理学は、人の心、行動を分かろうとする学問で、講座では、「分かる」とどうなるか、「分かる」ってどういうことか、「分かる」には、どうすればいいかきいた。この話をきいてすごく人間の「分かる」っていうのが、おもしろいなと思った。いろんな画像や動画を使って、人間の心理について説明してもらえた。分かると人に言いたくなるのは、一見だめなことのように思ったが、人間の文明が発達してきたのは、このおかげだときいて、すごく納得した。また、「分かる」とは、目の前の世界と頭のなかの世界が一致することだと知った。最後に「分かる」ためにどうすればいいかで、「分かっているつもり」に気づき、世界で他人と関わることも大切なのを知った。

人生ゲームの社会学

高木　竜輔先生

1729　田中　結菜

今回、私がこの講座を受けて社会学とは何なのか、人生を社会学するとはどのようなことなのかを知った。社会学とは、地域社会(コミュニティ)、学校、家族などが、社会として成り立つためには、「人間」がいても成り立たない、「人と人を結びつける仕組み」とは言葉や慣習、その人の物事に対する意識、法律などの制度が社会においてどのように機能していくのかを研究していくのが社会学という学問であることを知ることができた。人生ゲームと社会学という学問の関連性それは、人生がこれほど波乱に充ちていたか、という感覚、社会学で研究していても予測できない人生の岐路にあるライフイベントの変化である。

日々、人々が当たり前に経験してきたライフイベントがなくなりつつあること、人生ゲームにもあった予測できない人生、それを研究し、学んでいく社会学の講座は、私にとって大きな影響を与えた。

1736　羽生　有希

今回の講義を受けて、社会学とは何かが少し分かった気がする。昔(戦後六〇年)と今を比べて、様々な変化があることも分かった。社会が成り立つためには、「人と人を結びつけるしくみ」が必要で、その「人と人を結びつけるしくみ」とは言葉や慣習、意識、制度、明文化されていない規範であり、これからの社会は私たちが創っていくと考えると、責任感を感じる。現代の社会は、ただ勉強ができて良い会社に入れば安定した生活ができるわけではないことに驚いた。これからの社会を生き延びていくためにも、今、学べることを学んで吸収し、多くの知識を蓄えておく必要があり、今を大切にしようと思った。

絵で見る法学入門

菅野　昌史先生

1211　佐々木菜那

今回この講義を受けて法学について学んだ。法学というと私は自分の国だけの法律を覚えるだけでいいのかと思っていたが、実際はそうではなく、法学とはどの法律がどの場面で適応されるかを知ることだと知った。法律は国や時代とともに異なっていくもので、日本には現在約七〇〇〇もの法律があるそうだ。今回はアメリカの画家ノーマン・ロックウェルさんの五つの絵から法学とはどのようなものかということを絵から読み取って考えることができた。規範はさまざまな具体的な場面として描くことができるし、逆に、描かれた場面のなかから引き出せる規範はひとつではないということも分かり、ただただ六法や判例を覚えるだけではないと知り奥が深いなとおもしろく感じることができた。

1338　山崎　雄生

菅野昌史先生の講義を受けて、法学を学ぶには、判例と六法の二つを勉強することが大切だと分かった。

また、昔のアメリカと日本の制度は全然違う。アメリカには、陪審制度があり、陪審員が十二人いて、全員が一致しなければ判決できないことを聞き、とても驚いた。

一九四一年にフランクリン・D・ルーズベルトが「四つの自由」を提唱し、その内容は言論と表現の自由、神を礼拝する自由、恐怖からの自由、欠乏の自由である。その四つの自由は日本国憲法の中に含まれている。法律は、国、時代によって異なり、行動規範であるとともに裁判規範で、具体的な場面のなかからそれを「証拠」として理解することが必要になることを初めて知った。

アレルギーってなあ～に?

村田　和子先生

1116　齋藤　桃

この講義では自分の体の免疫について、とてもくわしく知ることができました。免疫の働きの良い所と悪い所どちらも知ることができました。特に日本は免疫学の研究がとても進んでいるということは初めて聞きました。私は薬学部を目指しているので、一つ一つのお話がとても勉強になりました。しかし私が最もこの講義で勉強になったことは、最後に先生のお話の中にあった、薬学部で学ぶ実習や、資格をとったことによる将来のことについてです。病院や、薬局で働くということしか今までの私は知りませんでした。しかし、製薬会社や麻薬取締官、食品メーカーや、化粧品メーカーでの開発など、就くことのできる職業が多岐に渡るということを聞き、驚きました。言われて見れば、確かにそうかもしれないけれど、自分では気づくことはできませんでした。この話を聞いて、とても私の将来が広がったような気がしました。これからも、もっともっと自分の将来のことについて、考え、調べていきたいなと思いました。

1135　丸山　陽向

この講義では免疫について学びました。免疫が働くことによって細菌やウイルスなどの病原体をやっつけて体を守っていて、その免疫細胞には八種類あることが分かりました。予防接種は、免疫力を付けて体を細菌やウイルスなどの病原体から守る方法で、その免疫反応は二回目の方が強いと分かりました。予防接種の例にインフルエンザワクチンがあります。その有効期間は五ヶ月で効果が現れるまでは二週間もかかります。免疫反応における良い反応は感染を防御してくれることですが、その一方で悪い反応もあります。アレルギー、自己免疫疾患、移植拒絶反応です。免疫を働かせることにも考えなければならないことがたくさんあるなと感じました。アレルギーも三人に一人から二人に一人になっていることが分かりました。

子どもと遊び

河田眞理子先生

1104　猪狩　美結

私は保育士になりたいと考えているためこの講義を選びました。最初は看護師についての話をお聞きし、保育士とはちがう良さや大変さがあると感じました。「遊び」とは、楽しむ、娯楽、休養、リラックス、ストレス解消などの目的で生物がする行動と総称されることが分かりました。子どもにとっての遊びは何かの目的のもとに行うのではなく、自由で自発的な活動であり、食事や睡眠など生きるために必要なことと同じように大切な事ということが分かりました。私たちのような高校生や大人とちがって子どもは常に遊ぶことは日常的なものだということを感じました。私はこの講義でも言っていたように地域に貢献できる人になりたいと思いました。将来保育士になれるように勉強をがんばっていきたいと思います。今回お話を聞けて良かったです。

1420　酒寄　藍衣

子どもの遊びは、年齢によって変化し、その子の遊び方によって、年齢や発達段階を知ることができるということに驚いた。この講義を聞いて、子どもはおもしろい生き物だということを知った。そして、子どもにとって、遊びはいろんなことを獲得するための大切なことだと知った。今まで「遊び」というものを深く考えていなかったので、とても良い機会になった。私は子どもの扱いがうまくできなかった。しかし、先生の具体例を聞いて、機会があったら実践してみたいと思った。学校生活で、ストレスがたまったときは自分に合った「遊び」を見つけて、ストレス解消したい。私の母は保育士なので、子どもについて、たくさん聞いてみたいと思った。とてもおもしろい講義で、子どもについて興味をもった。

PPKと運動機能

藤原　孝之先生

1107　大内　千尋

作業療法士は、日常生活活動（ADL）を出来るように支えることである。そのために動くためにどこを使い、どこを使ってはいけないのかを真剣に考える。一番多い例は、老化による日常生活での不自由。私はこの講義を聞き、老人はこう考えるのか！と知った。何かが出来なくなっていく。その恐さもすごいものだろうと思った。作業療法士は分析し、出来ないを無くすため活動する。この仕事も人のためになり、かけがえない仕事だと思った。老化は日々進行し、大人と青年層で出来ることの可動域が大幅に変化することを知った。しかしそれは皆に起こる。その時大事なのは「○○できなくなってしまった」の考え方ではなく、「まだ○○ができるや」と考えること。確かに人生（QOL）が変わるよなあ…と納得した。考え方は大きな可能性につながると思う。今から始めたい考え方だ。将来、支える側に立ちたいならば、かかせないものだと思う。

1124　髙田　智江

加齢とは死亡にますます近づき、出生からますます遠ざかる一つの過程である。加齢とは平均余命までの足し算、老化とは平均余命からの引き算である。高齢者では、単純動作反応や危機回避能力がにぶくなっているから、それをサポートし、健常者に近づけてあげることが必要である。

ADLとは、日常生活活動のことで、ひとりの人間が独立して生活するために行う基本的な、しかも各人ともに共通に毎日繰り返される一連の身体動作群という。九〇、一〇〇歳まで自分でPinPin歩き、寝込んだら一～三ケ月でKororiとお迎えを待つ!!これからは、健康かどうかは、何ができるか、できないかではなく、どんな自己実現をするかで決まることをきいたので、できることはなにかを大切にしていきたいと思いました。

ロボット工学とプログラミング

高橋　義考先生

1129　馬上　陸

この講義では、ロボットや、身のまわりのICT製品のプログラムとフローチャートについて学びました。現代の社会でも、ルンバやペッパー君などのロボットが誕生しています。確かに技術の発展によって、生活が便利になることは願ってもないことだと思います。しかし、大半の職業が、技術の発展によって、消失してしまうこともあるかもしれません。例えば、人に変わり、ロボットが何でもできるようになってしまうと、その職業の人が辞めなければならなくなってしまいます。そして日常生活でも、習慣だったものが、便利になるに連れて、なくなってしまいます。このことから、便利になっても、依存しすぎないことが大切だと思いました。

1506　遠藤　賢

私たちの身の回りには、様々なICT製品があり、とても便利な生活を送ることを可能にしてくれている。その中には、パソコンやスマートフォン、テレビなどがあり、今まで、この製品はどのような仕組みでできているかなどと考えたことは、あまり無かったが、その一つ一つにプログラミングされて動いていると思うと凄いなと思った。ロボット競技大会のビデオを見せてもらったが、プログラミングで、あの動きをさせることができるのは凄い技術だと思った。フローチャートは少し難しかったが面白かった。自分もプログラミングをできるようになってみたいと思った。

「こころ」の調べ方～心理学実験のはなし～

末次　晃先生

1611　齋藤　実子

今日、この講義を聴いて、心理学のデモンストレーションも行いながら、「心理学」について学びました。「心理学」と聞くと、"占い"や"こころの相談"といった言葉を思いうかべますが、実は心理学にはさまざまな分野があることを初めて知りました。また、心理学諸分野の共通点は"対象を客観的に測定すること「こころを測ること」だ"ということも知りました。デモンストレーションでは、一.運動残効、二.自由再生課題、三.偽記憶DRMパラダイム、四.リーダーの資質「低い声」を行いました。特に印象に残ったのは三.偽記憶DRMパラダイムです。ここでは人の記憶は簡単に偽記憶になってしまうということを聞き、とても驚きました。また、記憶力をはかるテストで覚えやすいのは初めの部分と終わりの部分で、中間部は覚えにくいことが分かりました。この講義を聴いて普段体験できないデモンストレーションを体験できたのでとても良い経験になりました。

1729　田中　結菜

今回、私がこの講座を受けて心理学とは、こころの悩みの相談だけが心理学ではないということを初めて知ることができた。心理学とは、自分がイメージしていた学問よりも、とても多様な心理学があった。この講座では実際に心理実験を体験しながら、心理学研究について学んだ。そして、心理学研究の基本は「こころを測る」こと、その方法のひとつが「実験」、ただし結果は統計であることを知り、実験は個々でやるが結果的には全体の平均で結果を出すということを学んだ。実験を体験を通して、「こころ」のはたらきは様々で日頃の生活の中で私たちが持っている活動このすべてを支えているのが「こころ」の働きであること、短期記憶と長期記憶の二種類の記憶の感じ方のこと、偽の記憶についてなどを学ぶことができた。今回の講座で学んだことを元にこの先の人生に生かせるようにしていきたい。

AI（人工知能）×ロボット×ビックデータ激変する二〇二〇年のビジネス社会

大嶋　淳俊先生

1434　前川　夏穂

私はこの講義を受けて、経営学の見方が変わりました。ただ仕事、業務をマネジメントするだけではなく、自分で思考をはたらかせ、物事を正しくとらえながら仕事をしていくことでもあるのだと感じました。また、知識だけではなく、ヒトや組織を動かす力も必要であるということは、仕事をする上で全てのことに必要とされる力でもあるなと思いました。タイトルにもあるように、AIやロボットは私は少し怖い存在だと思いましたが、よく学び理解してみると、メリットやデメリットがあることが分かりました。デメリットの部分では"AIに仕事をうばわれる!?"ということが一番記憶に残り、そうならないために学習する能力を高め、自分たちでどうしていくか考えながら社会をつくることが重要ではないかと思いました。

1717　下山田隆輔

経営学とは、全ての職業にとっても必要なスキルで、ヒトや組織を動かす力で、人々を通して仕事をすること。AIがかなり進化してきており、もう人々では勝てなくなってきていることは知っていたが、ここまで圧倒的だとは思わなかった。将来もAIに仕事を奪われる職業も多く、危機感を抱いた。又、日本のAI技術は世界に対して遅れており、トヨタの自動運転はGoogleよりも劣っているので、将来下うけ会社になるかもしれないと聞いたときは、とても驚きました。このように外国の企業が日本にどんどん進出してくると、雇用も減り、大変になってしまうと教わった。このような社会になるにつれ、身につけるべき必要なスキルは、機械にできない、自動化されない、ビジネスと仕事をつなぐ仕事、自動システムの上をいく仕事、新システムを生み出す仕事ができるように「学習する能力」と「やりぬく力」だと教わった。これからの自分が、何に貢献し、何を得るかを考えていきたいなと思います。

みんな違ってみんないい！～人の心のお話～

大島　典子先生

1211　佐々木菜那

心理学と聞いて人の心が分かるようになるのか、また、心理学とは具体的にどういうことなのかが気になり今回この講義を受けた。実際に心理学について話をきくと、心理学を学んだからといって人の心を一〇〇％理解することはできない、けれど一〇〇％人の心を理解できないこともないと知りとても興味をもつことができた。一つのことをとっても人によって楽しみと思うか、楽しみだとは思わなかったり、人によって考え方はさまざまある中で人の心を理解するのは難しいが、自分の経験や想像から相手の気持ちを考えてだれかのために、だれかのサポーターになることが大切だと分かった。また自分だけでストレスをかかえこまずに、自分だけの考えが全てじゃないから第三者の考えを聞くことも大切だと思った。

1236　吉田　華奈

心理学は人の心を支えるためのもので人の心を一〇〇％分かっていることはないと思っていた。講座の中でも一〇〇％分からないと言っていた。でも一〇〇％全部が分からない訳でもないとも言っていた。実際、カウンセラーの人と話したこともないし、心理学を知ろうかと思ったことはなかった。だが、この講座で心理学は人の心を支える。自分の経験から想像して寄りそうということを知った。ストレスは出来事があるからたまっていくのではなく出来事のあとのネガティブな余分な感情を抱くことでたまっていくことを初めて知った。この講座で色々なことをたくさん知ったし、心理学に少し興味もわいた。また、教わった自分がどのようなストレス反応をするのかを理解しておく」ということをやってみたい。

新入試に向けて

七島　良雄先生

1131　蛭田　芽唯

まず始めに感じたことは、新大学入試について何も知らなかったということだ。新大学入試は、英語四技能があることを知った。私はリスニングが苦手だが、克服するために、毎日五分以上英語を聞くことを心がけたい。また、活動記録を残しておくことが重要だと分かった。私は、記録を残しているが、具体的ではない。文章を書く能力を高めるためにも、具体的に、できるだけ長く書けるようにしたい。また、調査書に書けるような活動に参加したり、そのような活動を計画したりしていきたい。英検など、外部の活動にも積極的に参加していきたいと感じた。

1235　山中亜花梨

私達と深く関わり、将来的には大きな壁になるであろう入試改革についてテクニックや新しい入試情報を知ることができました。新入試に向けて、私達が行わなければならないことで日々の記録。私は、少し手帳にメモを取る程度でしたが、誰が見ても理解されるような「記録」を三年間を通して築いていかなければいけないと痛感しました。定員の厳格化が気になってくるところですが、コツコツとこまめに努力を続けていこうと思いました。また、英語の試験が民間企業の試験や検定を用いるということで、一年の今の内から特に「話す」スキルを身につける努力をしようと思いました。マナビジョンを活用して今後の課題になるであろう「Portfolio」に結びつけようと思います。私の今後の課題として、進路先で何を学ぶかを明確化しなければなりません。有意義な日々を過ごしながら、先生と両親と相談し自分自身が何をしたいかを発見できるようにしたいです。

全体感想

1407　大沼　耕己

大学のオープンキャンパスではないのに大学の学部の説明だけでなく、大学受験の詳しい受験についてやこれからの社会のことも聞くことができたので、とても良い体験ができた。教養学は前から少し興味があった学部で社会学と心理学を聞いたがどちらも奥が深いもので、どちらの授業も楽しく聞くことができた。三時限では受験のことに関して大学の先生から詳しく聞くことができこれが必要なことや今の世の中のことに関しても聞くことができたので良い体験ができた。この総合大学で今の自分に何が必要なのかが分かったがあまりできていないことが分かったので、これからそれを改善することができるように頑張りたい。

1607　小野　亘貴

この三つの講座を聞いて一番印象に残っているのは二時限目のPPKと運動技能で先生の考えや、体験させながら教えてくれたのでとても良かったです。元々の理学療法士にはなりたかったですが、この講座でもっとなりたくなりました。他の講座も今後に生かせる大事なことを教えてくれました。そして、今後はこの講座で学んだことを、自分に生かし、目標となる大学に行き、なりたい職業について、人生を楽しみたいです。もっとたくさんの講座を聞きたかったですが、どれも内容が濃く、満足できました。また機会があれば、講座を聞きたいです。